

山下フログ・RUNRUN日誌より

◆自民党の宣伝部と化したマスコミ (9/18)

朝6時前から1時間余りビラ配布。名簿を整理し、「お元気ですか」238号を5000枚印刷。朝のテレビ欄を見る。NHKから民放までどこを見ても朝、昼、晩と自民党総裁選である。何の節操もなく勝ち馬に乗る議員が続出で福田勝利は確定的。それなのにどうしてここまで取上げるのか。競争馬じゃあるまいに何が「毛並みの良さ」だ。「孫」か「息子」か、庶民にはどうでもいい。それにしてもマスコミの権力迎合はひどすぎる。

◆バイクで走りました。東大阪市議選から扇町へ (9/16)

東大阪市議選で田崎かな子候補の出発式に参加。市民派議員も多数参加で上々の滑り出し。午前中、宣伝車でマイクを握り、流しとスポット演説。「議員の仕事とは何か、東大阪の自・公による市長不信任は許せない」を中心に訴える。

昼から新社会党近畿ブロックの会議を東大阪市内で開き、秋の合宿、中央委員会の報告について話し合う。終了後、全員松平要選挙事務所を訪問し激励。

終わって参議院大阪選挙区・服部良一選対の総括会議に出席。会議後の懇親会はバイクのため断わって帰宅。朝から茨木、摂津、寝屋川、四条畷、大東、東大阪、大阪市と原付で回ったがいつまでこんな動きができるのだろう。



◆法律違反の教育委員会持ち回りはなくなります (9/13)

文教委員会の準備で今朝の3時まで、質問を組み立てる。いくら市教委の法律違反追求がメインだとしても、これだけやればいいわけではない。貧乏性ゆえにそれなりの質問をしなければ心に悔いが残る。条例2件と学校給食の民営化を追加、これでも品不足だから質問のテーマをさらに探し出す。

よくあることで、調べていけばいくほど材料が膨らむ。それを適当な大きさに削り取り、組み立てる。その際、答弁者にどこまで答えさせられるのか、ポイントはどこか考える。浮かんできてくる答弁者の顔によっては再考することも出てくる。



10時からの文教委員会で持ち回りでの教育委員会については見直しを約束させ、会議録など開かれた委員会作りについても一定前進の答弁を得た。もし居直れば、教育委員会に「法と規則に則った委員会運営を求める請願」を出し、マスコミにも連絡して闘う予定だったが、これはなくなった。文教委員長はスマートな委員会運営、他の委員さんも協力的で感謝している。

総務常任委員会は3時ぐらいで1日も持たずに終わった。メンバーはどれほど質問の準備をしたのだろうか、「ちゃんと仕事せーよ」といいたくなる。我が文教は5時の定刻をまわり、明日も行うことになった。いいことである。

◆こどもの教育によくないよ 居直り茨木市教委 (9/10)

ややきつい表題になったが仕方がない。素直に誤りを認めず強弁していたら、「間違いが分かったら、まずごめんなさいやで」と、市教委は子どもたちに教育する資格がない。経過を知ったら「茨木の市教委になんか言われたないわ」と反発されるだろう。「反面教師にしろ」と教育してくれているのかもしれないが・・・。

このいきさつはこのブログに書いた持ち回りで教育委員会を開催していた事に始まるが、これは明らかに地方教育行政法違反、会議規則違反である。

だから読売新聞が夕刊に、産経新聞が翌日の朝刊で取上げた。どちらも持ち回りは「改める」となっている。その前提として「法に違反するという認識はあった」と市教委は読売記者の取材に答えているのである。

それが今日の答弁では「法の範囲内であって違法ではない」と居直った。私は「弱者」の居直りは認める、時にはもっと世間に居直れと激励もする。しかし権力者の居直りは我慢できない。どうするかは今思案中である。



文教委員会で反省が無ければ、市教委は恥の上塗りを重ねることになる。一つのウソが次のウソを生み、收拾が付かなくなりだんだんと墓穴を掘っていく。誤りは誤りと認めるのが真の勇気だ。易経にも「君子豹変する」とあるではないか。早いにこしたことはない。

私は別に教育長や教育委員長を困らせたいと思っているわけではない。「いい教育をして欲しい、そのリーダーにふさわしい対応を」と願っているだけである。だから市教委に「法や自分たちで決めた規則を破ったらダメでしょう。間違ったことをしていたら、それを止めてルール通りにやりませんか」といっているのである。



議場にいる市長以下理事者も、私たち議員も知らない人からすれば単なる年相応の一市民に過ぎない。議場の外ではなおさらそうだ。どこかの市役所で市民課の職員が規則にそって市長にも同じ対応をしたら「俺は市長や」と偉い剣幕で怒り、まわりの失笑と軽蔑を浴びたらしい。またたく間に「知っているか」「聞いているか」と話がひろがり大半の市職員が知るところとなった。近づいてくる市長選で落ちたら「偉そうにしとったもんな」と、この話やあの話がにぎやかに飛び交うことだろう。

人間チョボチョボと考えている私が偉そうにするのは肩書き好きの「自分は偉いんだ」と思い上がっているふつうのおじさん、おぼさんだけである、・・・と思っているのだが。

◆会議は教育委員会に限っての質問になります (9/6)

3月議会で中途半端なやり取りになった国民保護計画についての質疑を予定していたが、教育委員会の運営に対する質問時間が欲しいので今回は取りやめることにした。発言通告内容について議会事務局と調整。教育委員会・新井部長からのヒヤリング。

ウェブで調べていくと持ち回り教育委員会が茨木だけでなく、東京葛飾区などでも行われていた。おせっかいとは思ったが担当者に電話をかけて状況を聞く。すぐ問題点を把握されたようで正常な運営に近づきたいとのこと。文科省・教育委員会係に条文解釈について問合せ。明日の回答になるとのことだが丁寧な対応だった。

ホームページに手をいれている。リンクの宝庫を 24 に分類しているが、そのテーマごとに作成した関連ページ（議会発言、写真で見る活動、新聞で見る活動）に飛べるようにした。まだ完成したわけではないが、これで私がどんな問題意識や活動をしてきたかよく理解してもらえるのではと期待している。またこのようなホームページの構成は極めてユニークな試みだとも思っているのだが・・・。



◆もはや病気 東大阪・自公民の傍若無人ぶり (9/3)

議会質問の準備。教育委員会のあり方について、他市の教育委員会に電話しての調査に加え、HPも比較すると茨木との違いがよく分かる。茨木市育委員会の閉鎖的体質は病気に近い。

「病気」といえば、東大阪の自公民。共産党市長つぶしが仕事と勘違いしているようで自らの市議選（9月16日告示）まで1カ月もないこの時期に数を頼んでの市長不信任。無理が通れば道理が引っ込むとでも思っているのか。反共主義は東大阪自公民の宿痾（しゅくあ）に思えてくる。

その東大阪市議選や交野市議選への対応で調整。参院選・9条ネットの支援者からのメッセージが届く。普段から原爆と戦争の話しをされている四条暁のSさんからのもので9条への思いが伝わってくる。HPのリンクの宝庫に手を入れる。

◆緊張感薄れる茨木市議会 「教育委員長の常時出席は求めない」だと (8/31)



議会事務局から「教育委員長については本会議、文教常任委員会に説明員としての出席は求めない、ただし議員から出席要請があれば議長、委員長の判断になると幹事長会で決まった」と告げられる。要するに教育長からの答弁だけでいいということか。これでは教育委員長が単なる飾りにすぎないと議会が認めるようなものだ。侮辱された教育委員長は抗議声明の一つでも出して当然である。もし気骨があればの話だが。

教育委員会は5人の教育委員から構成され、そのうちの1人が教育委員長で教育委員会を代表する。また1人が教育長で教育委員会の事務の責任者。教育長は常勤であるが、教育委員長を含む4人の教育委員は非常勤である。当然教育行政については教育長が精通しているのが一般的である。

教育委員長に答弁を求めるのは私ぐらいである。細かいが教育委員長は非常勤といっても月額20万弱の報酬で他の教育委員よりも2万余高い。年4回の定例議会ぐらい議場や委員会室で議員が市民の代表としてどんな問題意識を持っているのか、部課長がどのように答弁するか聞くのは仕事だ。大方の市民もそう思うだろう。教育委員会の責任者が議会でのやり取りを報告だけ聞いて済ませるようになったらおしまいだ。

人間は楽をしたい動物だ。答弁しなくなったら、その分仕事に対する緊張感はなくなり、議会との緊張関係も薄れる。議会が説明員としての出席は求めないというのは自殺行為だし、教育委員長のためにも、最終的には市民の利益にもならないだろう。

元気 237 号の印刷。「新社会」の配布と集金。夜は学校給食の民営化についての会議。教育委員会への請願傍聴の感想、今後の取組みなど話し合う。